

# 分科会 13

## 当事者の結婚・子育てを支えるための配偶者と子どもの支援

横山恵子（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科）  
蔭山正子（大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻）  
前田直（杏林大学保健学部作業療法学科、配偶者の会代表）  
明石真由美（精神疾患の親をもつ子どもの会）  
岸野みゆき（精神疾患の親をもつ子どもの会）  
坂本拓（精神疾患の親をもつ子どもの会）、他

精神障がいを持つ方の配偶者、子どもの実態は知られていません。この分科会では、ピアサポートを実践している配偶者や子ども自身に体験を語っていただき、生活での困難を知ってもらうとともに、家族自身の持つ潜在力やリカバリーの姿を考えることを目的としました。配偶者と子どもの支援を充実させることで、当事者の結婚、育児というリカバリー促進に貢献できると考えます。

### ●発表の内容

蔭山氏は行政保健師という支援者の立場で、妊娠期から子育て期まで切れ目のない育児支援の必要性を話しました。

配偶者の立場である前田氏は、配偶者が「孤立」や「経済的な困窮」に陥りやすい生活実態、「精神に障害のある人の配偶者・パートナー支援を考える会」の活動状況を話しました。

横山は、子どもたちの生活実態、大人になっても抱える生きづらさ、子どもの立場の「家族による家族学習会」や配偶者会と連携した若者支援など、子どもたちのピア活動の実際を話しました。

明石さんと岸野さんが子どもの立場として、ご自身の体験を語りました。

親の発病による家族の混乱、子どもの困難や辛さ、基本的な生活習慣が身につかず、家族の団らんを知らずに育ったこと、「家族による家族学習会」に参加して初めて母親のことを話せたこと、人生を振り返る作業の中で、母親の苦しみを理解できるようになったことなど、子ども自身の回復の歩みが話されました。

1. 子育て支援における配偶者支援と母子保健システムのあり方（蔭山正子）
2. 精神に障害のある人の配偶者・パートナーへの支援（前田直）
3. 子どもの活動の可能性：「家族による家族学習会」と配偶者の会での若者支援（横山恵子）
4. 精神障がいを持つ親に育てられた子どもの体験（明石真由美）
5. 精神障がいを持つ親に育てられた子どもの体験（岸野みゆき）

### ●グループワーク・まとめ

後半は、配偶者の立場、子どもの立場の参加者、それぞれ交流ができるようにグループを作りました。子どもの会からは、発表者以外の方も応援に来てくれました。また、その他のご家族や当事者、支援者が発表者を囲んでグループで話しました。

グループの人数が多かったことや時間の不足から、十分に話せなかったのが残念でした。最後にそれぞれのグループから感想が述べられました。

配偶者や子どもの立場の方々からは、同じ立場同士で話せて嬉しかった、こうした安心して話せる場が地域に必要である等の感想がありました。また、支援者からは、体験が心に突き刺さった、配偶者や子どもにもつ

と関心を持って関わりたい、育児支援や家族を丸ごとサポートする必要性を痛感した、等の感想がありました。

《横山恵子（埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科）》